

泉州国際市民マラソン 第1回大会

1994 年 (平成6年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 1th CONVENTIONS



2月20日

天 候: 曇り
気 温: 9℃
参加者数: 2,982人
完走者数: 2,640人
沿道人数: 65万人

第1回大会コース

大浜公園(スタート)→松原交差点→空港
連絡橋→りんくうタウン(ゴール)



1994 年 9 月に開港する関西国際空港竣工を記念し、空港連絡橋の渡り初めイベントとして行われた「泉州国際市民マラソン大会」は、五輪マラソン優勝のチェルピンスキー (ドイツ)、ポール・バリンジャー (ニュージーランド) の外国選手のほか、宗猛、喜多秀善、姫野美佐子など、国内の招待選手を含め、そうそうたる顔ぶれが揃って開催された。

関西のタレントランナー高石ともや、間寛平、上岡龍太郎らの多彩な顔ぶれが、沿道を埋めた観衆の声援にこたえ力走した。また、往年の名ランナー・ニュージーランドのアリソン・ローらも記念大会に華を添えた。

国家的プロジェクトであった新空港開港記念として、秋篠宮ご夫妻のご臨席により、沿道には 65 万人の群衆が間断なく続き、3000 人のランナーに熱い声援を送った。市民マラソンとしては、かつて例のない盛大な大会となった。

男子優勝の桑原和雄 (NTT 関西) は、先頭を行く吉川潔を 31km 過ぎの連絡橋でとらえ、逆転のレース展開であった。記念すべき第 1 回大会の優勝者、桑原和雄と黒崎しのぶ (大阪陸協) 両選手は名だたる招待選手を相手に、開会式 (前夜祭) での自信にあふれた言葉どおりの快走であった。新空港への連絡橋を走る 1 回限りの記念大会でもあり、全国各地から定員の 3 倍以上の、1 万 249 人 (外国人 48 人) の申し込みがあった。



沿道で声援をおくられる秋篠宮様ご夫妻

泉州マラソン成功させよう

関西新空港の開港を記念し、来年三月二十日に三千人が碑「泉佐野の湾岸四十二・一九五」を駆け抜ける「泉州国際市民マラソン」(読売新聞大阪本社など後援)の事務所開きと事務局結団式が六日、岸和田市内のホテルで開かれた。

主催の実行委員会を組織する地元九市四町や府、泉州銀行、まちづくり市民クラブ「泉州エフフロントフォーラム」などの担当者ら四十人余りが出席。一人ずつ自己紹介を行い、ビッグイベントの成功を誓い合った。

実行委員長の吉道勇・貝田市長は「泉州が一つになって行う初の広域イベント。素人はかりでよくここまで来た」と感慨深い。しか

結団式と事務所開き

一岸和田



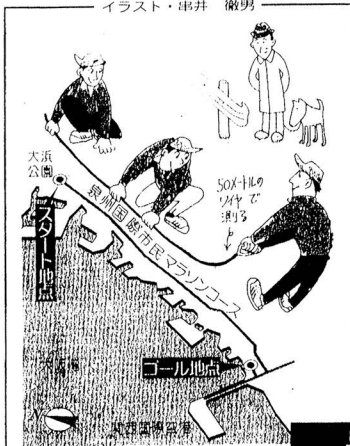
事務所開きの会合であいさつする実行委員長の吉道貝塚市長

し百里の道は九十九里をもって半はとするといいわれる。混成で臨時の組織だが、これからが始めりのつもりで頑張ってほしい」などといあいさつした。

724・39・3601)
に臨き、分所を市筋筋海町
六、渡辺ビル八階(072
4・36・3440)に開
設。白水康雄・同セクター
所長を局長に、堺、岸和田、
貝塚、泉佐野、熊取の四市
一町の職員一人ずつが専従
体制で臨む。

1993年(平成5年)9月7日付朝刊

イラスト・串井 徹男



マラソンシーズンは最盛期。人気スポーツだけあって、日本陸連が公認したコースは100以上に上る。関西国際空港開港を記念して開かれる「泉州国際山民マラソン」(読売新聞大阪本社

など後援)。2010年の時刻を前に、
こちらにも公認コースの仲間入り
を果たした。アップダウンにS
字カーブ、特徴を生かしながら、
42.195kmはどのように計測し
て、設定されるのだろうか。

42.195^キは どう測る？

泉州国際市民マラソン

道端から30センチ内側カーブは最短距離

10人から、50人までワイヤ使い

つかめない。このため、路面に触れないよう約十人がゴールラインから測り始め、距離がうまく収まるように調整、最後にスタート

地点を決めるのが一般的。

測定の結果、「四二・

九五^五を、下回れば「不合格」。逆に上回った場合は、「一歩」を越え、肩すべりまでを許容範囲として、計四〇十二^二リッスまでなら「OK」とされる。これは、検定員によって「最短距離」の取り方微妙に変わってくるため、その分の幅を持たせたのだ。

ワイヤ以外では、カウンターを横んだ自転車での計測方法が、あつた。

18時間かけコース検定

空港連絡道
後半の難所

泉州國際市・昨上旬の
スロー模範は、昨年12月
中旬、大戦、皇都防の模
範定例が口行か、約十
八時間かて行つた。ス
ト地品、駅市、大浜、蘭前
と、いんぐル・泉州
野市）のゴルが決す、
たなにて、空港連絡路に
あり、抜の眠たが、ス
ト地品、0.50とて、
た時、連絡路上の低座
は、バス四十にても運す
いる。

コリーをチツツした大
阪陸防模範定例、仲田秀三
歴史を感る間並と、近
代的な海空空港、船舶の機
色はすばらしいが、空港連
路がほしいが、スロイのボ
イヤーと、緩めると一ト
くのごだす、選手として
は、赦しいと思う一話して



ご挨拶される秋篠宮殿下

1994年(平成6年)2月17日付夕刊



男子

NTT関西

桑原和雄

女子

岸城中学教員

黒崎しのぶ



泉州国際市民マラソン 第2回大会

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 2th CONVENTIONS

阪神淡路大震災のため中止

1995年(平成7年) 2月19日◎



1995年(平成7年) 1月17日5時46分、阪神淡路を震源とする巨大地震が発生、マグニチュード7.2の激震は大阪南部をも揺るがし、阪神地区ではビル家屋の倒壊、高速道路まで倒れるという未曾有の大災害であった。住居の倒壊のほか、大規模な火災により、死者6433名、家屋の倒壊11万7,489棟(消防庁発表)の深刻な大災害となった。阪神・淡路への救済や物資の輸送で大喧騒の中、日本国中必死の救援対策に追われた。

大会事務局は2月19日の開催に向け、新しいコースの公認手続きをとり、マラソン大会の準備がほぼ整った大詰めの段階であった。大会備品の発注・納入、プログラムの印刷の時期ではあったが急遽、関係代表者会議がもたれ、1月26日、大会の中止が決定された。参加料は申し込み者全員に全額返却された。

第1回大会を華々しく開催したあと泉州地方最大のイベントとして、「マラソンを継続しよう」との熱き思いが結実したが、抽選による当選者のほか1年間準備をしてきた関係者及び事務局員は、断腸の思いであった。

